

# 安心して生み育てられる対策を

河野 司

**問** 少子高齢化の中、出生率は1・289人このままいけば人口減少で、行財政基盤を維持できない状態に陥る。そこで、どの様に地域の活性化を図っていけば、若者は地域にとどまり結婚し子供を生むだろうか。子育て支援策は児童手当、保育手当、扶養控除等の経済的支援、育児休業、保育、育児と就労の両立支援、地域における子育て支援等で

ある。それぞれの自主的、自発的取組みを問い予算の増を求めめる。

保育手当、扶養控除等の経済的支援、育児休業、保育、育児と就労の両立支援、地域における子育て支援等で



子育てひろば

## 次世代育成支援行動計画に

### 基づき進める 市民健康福祉部長

**答** 野洲市次世代育成支援行動計画に基づき、特に21年度までに整備計画をしている。休日保育、夜間保育、一時保育や地域におけるつごいの広場、

ファミリーサポートセンター事業は早朝に開始する。また、提案の子育て支援策についても調査、研究する。



## 駅前整備は

**問** 市の玄関口である駅前整備はどうか

## 拠点整備を

### 早期実施 都市建設部長

**答** 等価交換方式でDPRロックは観光物産の拠点整備を早期実施し、土地利用計画案の作成その他活性化のため努力する。CPRロックはアサヒとの境界明示工事をする。

## 野洲市の総人件費

### 抑制と定員管理

川口 東洋

**問** 国の機関で、地方公共団体定員管理調査と、給与実態調査等の審議がされた。公務員の人件費抑制は、算定方法を言め、把握は難しいが本市としての認識を尋ねる。

①類似団体職員数、定員モデルに照らしてどうか。  
②定員管理は、財政事情、中長期の観点で求められる中どう分析されるのか。  
③指定管理者制度の導入を目前に、職員の力をどう

## 職の必要性、職員の能力等 総合的に判断、適正運用する

助役

**答** ①現時点の定員管理調査は集計中、16年4月の単純比較では14名超過。  
②新地方行革指針を踏まえ、平成18年から22年にかけての「定員適正化計画」の基礎調査中。  
③9月定例会で当該施設の設定条例改正案を提案。その後職員対応を考える。  
④団塊世代現象と、行政需要の変化により中高年齢層が多く、国の課長補佐級以上38%に対し、当市は32・2%。これは合併時、17年4月に管理職登用を必要最小限にとど

めた結果。人事、給与の運営状況は先議会可決の条例規定により透明性を高め、適正な運用に資したい。

う評価判断しているか、専門性のない職種への対応はどうか。  
④上位級職員の多い逆ピラミッド型といわれる現状をどう判断するのか。



野洲市役所 本庁舎

# 野洲病院を

## 竹生地先へ移転を

田中博



**問** 野洲病院付近の道路改良、対応等々問題解決

不能部分もあると思われる。又、一方では、市三宅と竹生地先交通アクセスは良いのに30余年解決されず、公園等々計画だけで実現化していない。双方の問題を解決するには、この地に移転する事

が一番だと考えられるので次の5点について質問する。

- (1)野洲病院付近の道路改良、耐震対策等々の進捗は。
- (2)市長や関係者は、移転の方向、今後の方針は。
- (3)近江八幡市民

病院の新築予算と内容は。

- (4)C地区地域開発用地利用計画の進捗状況は。
- (5)特に東西医学機関の動向は。

# 移転構想も視野に

市長

**答** (1)用地取得困難と莫大な事業費が必要なため不可能。

(2)今後は高齢化に向かって療養型病床を中心に考え、移転構想も視野に入れている。

(3)予算は244億円位で、病床数は407床、診療科目24、平成18年秋開院で療養型病床はな

(4)県有地は里の雑木林をテーマとした「湖国風景公園」と策定されているが、具体的な整備計画は示されていない。

(5)この5月12日に「野洲東西医学融合健康科学総合センター構想推進



野洲病院

# 新幹線新駅

## 当市の基本的考えは

鈴木市朗



**問** 県は福祉、教育予算を削減してまで、経営根拠が薄い新駅建設計画当

市負担額2億6900万円、市民一人当たり約5500円を強行に推進していることに伺う。

方は。

# 機会を捉えて説明

## 公益性重視で推進

市長

**答** ①各種団体の総会の席上で説明している。

- ②他市の場合とは別として、市単独で積算すればもっと高くなる。
- ③新駅は盛土工法のため安全対策上の架設工事にかかる経費が掛かる。
- ④公益性の高い事業であり、問題ないと考えている。



# 給食センター候補地断念を問う

## 今後も八夫地先で建設計画

市長

**問** ①候補地をなぜ断念されたのか。

- ②当地の受益地650haの見解は。
- ③建設の今後の展開は。
- ④地権者への対応は。

**答** ①候補地が野洲川受益地であることを認識していなかった。

②受益地650haについて行政として掌握していなかった。

③今後も八夫地先で18年度中に完成させる考えである。

④迷惑をおかけした方への応分の補償を考えている。